

雲取山山行

百名山登山、紅葉を楽しむ

2017年11月5日（日）～11月6日（月）

L：ハンブルクの星、非会員1名

11月5日（日）

東京都内から奥多摩駅にJRで着いたのは10時半頃、11時発の丹波山行き西東京バスに乗車して祭りバス停まで。車内は大混雑。それでも奥多摩湖バス停で殆どの乗客は降車したので一挙に空いた。祭りバス停の一つ手前の暢沢バス停では雲取山からの下山者がざっと100人ほどの大行列となっていた。日程を1日ずらして正解だった。祭りバス停で下車したのは我々含めて僅か6人だった。バスの進行方向に100mほど行くと雲取山登山口の後山林道入り口となる。今日はここから約3時間の行程だ。後山沢に沿って緩やかな林道登りを進む。沢の両岸は紅葉が陽光に照らされて美しい。登るにつれて大勢の下山者とすれ違う。3連休の最終日だが山頂は大混雑だったのでないかと想像する。13時に塩沢橋で1本目の小休止。更に高度を少しずつ上げてやがて林道終点となるところで2本目。ここには三条の湯の小屋の車が3台駐車されていた。やっとここから本格的な登山道となる。このあたりは既に紅葉真っ盛りという感じだった。

30分ほどで三条の湯の小屋に到着し、受付をする。空いているかと思いきや団体客があるとかで80人のキャバに対して65人くらいとやはり混雑していた。テントは小屋の下方の沢沿いに5張り。早速お楽しみの山上の湯に浸かる。ここの湯は東京都の水源域にあるので石鹸とかシャンプー等の使用は不可とのこと。それでもただただ湯に浸り、窓外の黄葉を眺めながらの湯はことのほか気持ちよかった。夜は満天の星だった。



三条の湯小屋

11月6日（月）

4時過ぎに起床。朝食は5:30からだ
が既に数十人が並んでいたの
で5時過ぎに我々も列に加わ
った。朝食を済ませて6時20
分に小屋を出発する。

朝陽が樹木を照らして紅葉が
一段と映える。8時20分ご
ろに飛龍山と雲取山の分岐の
三条ダルミに至る。ここから
の富士山の眺望は抜群だっ
た。

三条ダルミからは熊笹の中
の急登を登りきると雲取山山
頂かと思ったら、山梨県側の
山頂標識。本当の山頂はここ
から北に5分ほどの所にある。

9時20分に山頂に立つ。東
京都最高峰の山頂標識と明
治15年に設置された原三角
点の記念碑、そして標高2017
mなので西暦2017年の記念
碑もある。

山頂からは360度の大展望。
周辺の飛龍山、大菩薩嶺、
両神山のみならず富士山は
もとより北岳、仙丈、甲斐駒
の南アルプスを遠望出来た。

静かだった山頂にはあとから
あとから登山者がやって来て
賑やかになる。ここでカップ
麺を食べながら1時間ほど山
頂の展望をたっぷり楽しんだ。

山頂にある雲取山避難小屋内
部を覗く。きれいな室内だっ
た。ここからブナ坂まで富士
山を眺めながらの稜線散歩。
カラマツの黄葉も美しい。



雲取山山頂と2017年記念碑

やがて七ツ石山への20分ほど
の急な登りを経て1757mの
山頂に立つ。賑やかだった雲
取山とは対照的にとても静か
な山頂だった。ここから七ツ
石神社を経て七ツ石小屋まで
一気に下る。水場もある。こ
の七ツ石山や七ツ石神社の「
七ツ石」は平将門の伝承に因
りての地名とのこと。さらに
周囲の黄葉を楽しみながらぐ
んぐん下山して堂所や小袖乗
越を経てやがて鴨沢の雲取山
登山口に出た。ここから道路
沿いに下ると鴨沢の村営駐車
場が見えてきた。平日にもか
かわらずざっと50台ほど駐
車されていた。鴨沢のバス停
にはさらに10分ほど下って
至る。

「コースタイム」

11月5日（日）

12：00 後山林道登山口

14：30 後山林道終点

15：00 三条の湯小屋

11月6日（月）

6：20 三条の湯小屋出発

8：20 三条ダルミ

9：20～10：30 雲取山山頂

11：30 ブナ坂分岐

11：50 セツ石山山頂

12：40 堂所

14：10 小袖乗越

14：30 鴨沢登山口

文：ハンブルクの星